

1月の衛研検査情報

～トピックス～

横浜市内の蚊成虫生息状況調査結果 —平成26年6～10月—

横浜市では、主に市内公園および港湾地区等において蚊成虫生息状況調査を行い、地域特有の蚊の生息状況を把握しています。

デング熱、ウエストナイル熱、チクングニア熱、日本脳炎などの蚊媒介感染症は、それぞれ主要媒介蚊が異なり、平常時よりその地域特有の蚊成虫生息状況を把握しておくことは、感染症発生時に防除対策を立てるうえで重要な資料となります。

平成26年8月には、約70年ぶりにデング熱の国内発生がありました。平成26年は、6月から10月にかけて横浜市内19か所（各8回）で、各区福祉保健センター生活衛生課と連携し、蚊成虫捕獲調査を行いました。今回は、CDC型バッテリー式ライトトラップという昆虫類を捕獲する機器を用い、蚊を誘引するためにドライアイス1kgをトラップ屋根付近に設置し、一昼夜運転した調査結果について報告します。

主な結果 調査期間中、捕獲された蚊成虫の雌雄合計は、6属11種7,806個体でした。

最も多く捕獲された種類は、ヒトスジシマカ6,309個体(80.8%)、次に、アカイエカ群が1,150個体(14.7%)、キンパラナガハシカが185個体(2.4%)でした。

最も多く捕獲されたのは、西区公園で2,149個体、次に、鶴見区大黒ふ頭で1,054個体、磯子区公園で681個体でした。

衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所WEBページは、感染症情報や保健情報、薬事情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。検査情報月報では、アクセス件数をもとに、どのような情報に関心が寄せられているかを解説しています。



主な結果 平成26年12月は、横浜市インフルエンザ流行情報2～5号が4位までを独占しました。

今期のインフルエンザの流行は、例年より早く、横浜市でも昨シーズンより4週早い警報発令となりました。迅速キットの結果では、ほとんどがA型でした。

流行情報のほかにも、インフルエンザワクチン(5位)、インフルエンザについて(8位)等、インフルエンザに関するページのアクセスが多くみられました。

また、案内リーフレットが10位でした。これは、衛生研究所が磯子区から金沢区に移転し、26年12月に新施設が開所したため、アクセスが多くみられたと思われます。

これらの事より、12月の総アクセス数は、前月に比べ32%ほど増加し、総件数は192,775件でした。



詳しくは横浜市衛生研究所ホームページを御覧ください
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/inspection-inf/>



横浜市衛生研究所では、所内で行われた試験検査等の結果に解説を加えて、毎月、「検査情報月報」として報告しています。